

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

- 事業名: ユニバーサルデザインの歩行空間協働塾
- コーディネーター氏名・所属: 井田輝門・NPO 法人市民ネットワークすずかのぶどう
- ふりかえり会議開催年月日: 平成 17 年 3 月 23 日

### 1. 協働のプロセスについて意見

平成 15 年度からおこなわれている伊賀県民局の「協働塾」に応募・採択された平成 16 年度事業の1つであり、そのプロセスに意見を述べる必要はないと思われる。

### 2. 成果についての意見

事業の成果についても実績報告会・中間報告会がおこなわれ検証されている。

### 3. 課題・改善の整理とまとめ

現在成果物として調査マニュアルを作成中とのことで、調査結果報告とは別の意味で興味深い。いろいろなところでの調査に活用できるマニュアルを期待したい。

### 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

第 1 段階 情報収集、第 2 段階 勉強会による住民参加の啓発、第 3 段階 歩道調査、第 4 段階 調査マニュアル作成とステップを踏んで事業が行われた様子が伺えました。しかし 1 番の成果は協働事業による行政と市民の立場の違いの理解、地域組織との協働事業理解への難しさではなかったかと思えます。

■ 「ユニバーサルデザインの歩行空間協働塾」振り返り会議

■ ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 23 日

■ コーディネーター氏名：脇田智恵

所属：ESD in 三重

1. 協働のプロセスについて意見

ユニバーサルデザインの視点で安心して歩行できる地域づくりをめざし、その調査のためのマニュアル作りを行政とNPOが協働で行った事業。これまで行政では専門性や時間の限界などにより他の地域での事例の情報収集や分析に不十分な点が見られた。しかし、NPOと協働することでそれらにも取り組むことができ、マニュアルも完成度の高い有効なものになったと関係者は自負している。NPOについては、「同夢」の何人くらいの方がこの事業に関わったのかが少し見えにくかったので、次回、事業報告の場があれば、関わった人数と、関わった具体的な内容も含め、資料を作成してはどうだろうか。

2. 協働の成果

このようなマニュアル作りはこれまで行政主体で行われることが多かったが、NPOと協働して具体的な内容を作り上げたことそのものが、1つの大きな成果だと思われる。さらに、行政の中でも県の建設部と福祉部、あるいは今回調査の対象となった名張市の建設部や健康福祉部など、複数の部署が関わっていることにも注目したい。それぞれの関わり方や立場が違う中で、組織の違いによる考え方の相違や条例など、「協働」の壁となるようなことも多く発見できたという意見が聞かれたが、その発見そのものが、「協働」の1つのステップだったのではないかと思う。次はその壁をなくしていくために、誰が何をすべきかということを考えていくことで、次のステップに移行するものと思われる。

3. 課題・改善の整理とまとめ

近年、施設内やその周辺のバリアフリーには、設計の段階で随分配慮されるようになったが、道路など歩行空間についてはまだまだ問題が多い。そのことについて、より多くの住民に問題意識を持ってもらうことが、今後の課題となるだろう。そのためにも、単年度事業ではなく、継続していくことが望まれる。そして、さまざまな参加型イベントなどを通して、住民に問題意識を持つきっかけ作りをしていきたいと関係者は話している。

4. 事業全体についての意見・感想

マニュアル作りという当初の目的を達成でき、そのマニュアルを使って他の地域の調査をおこなって行くことで、活動の広がりが期待できる。